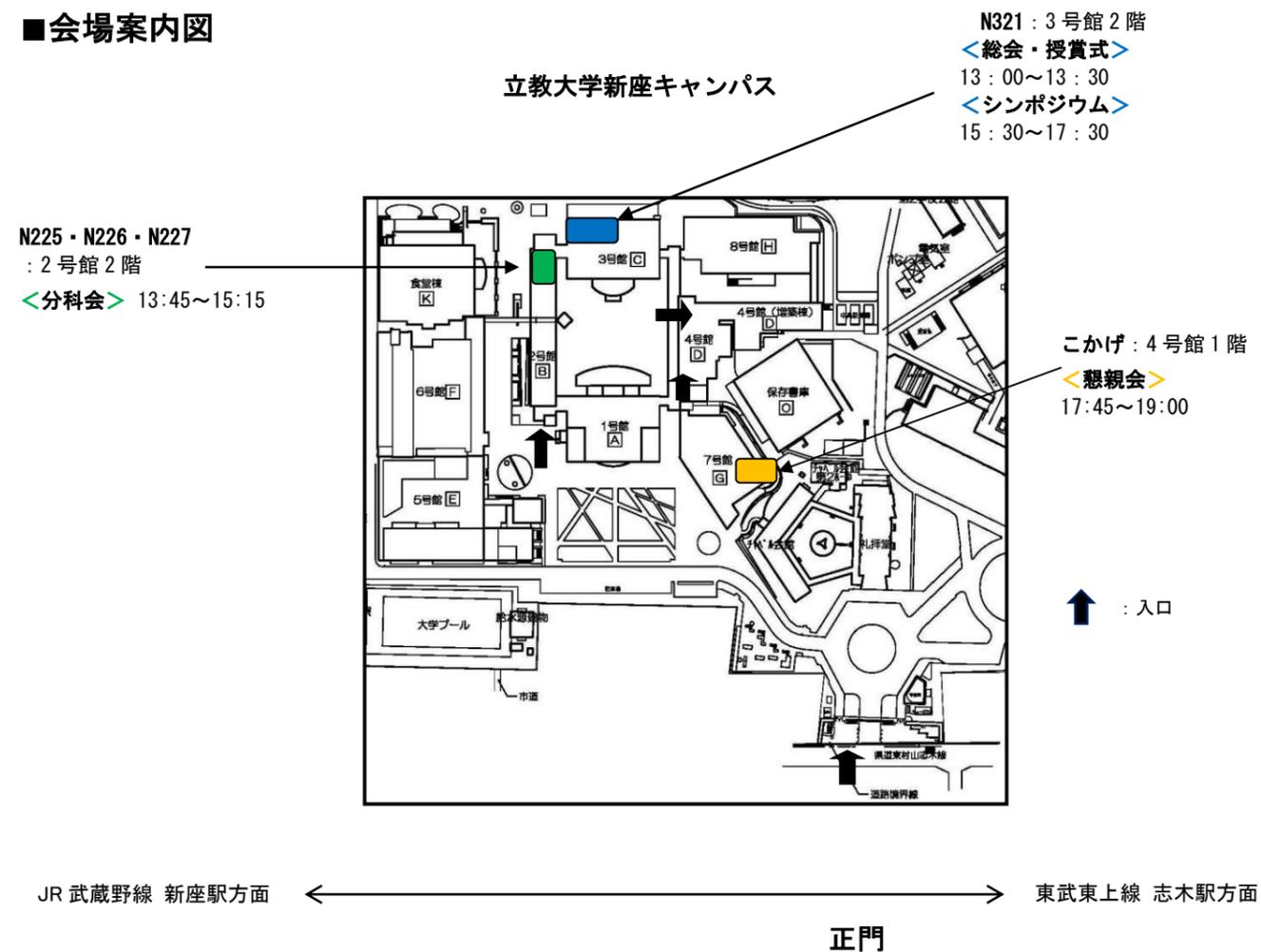


(司会：竹内悟 N227 コメントーター：小長井先生)	二村 彩菜グループ コミュニティ政策学科 藤井ゼミ 二村彩菜、川越美穂 〈団体発表 2名〉 13:45-14:05	『社会的企業の事業の持続可能性について～K2インターナショナルの活動から～』 私たちは若者支援を行うNPOや社会的企業について勉強しています。今回は横浜で30年以上活動しているK2インターナショナルをヒアリング調査しました。K2は株式会社形態とNPO法人形態の両方をとっている珍しい団体で、合宿型プログラムからお好み焼き店を運営するなど非常に幅広く活動しています。今回の調査から、社会的企業の持続性について考察しました。
	江村 拓哉 福祉学研究科 西田ゼミ 〈個人発表〉 14:15-14:35	『知的障害児および発達障害児の放課後等デイサービスにおける支援の在り方の検討—自発的活動に着目して—』 神奈川県にあるA放課後等デイサービスにおいて参与観察を行い、運動の楽しさと神経系の発達に寄与するといわれるコーディネーション運動の視点から日々の活動を分析し、知的障害児および発達障害児におけるエンパワメントの過程(プロセス)に着目し、検討する。またA放課後等デイサービスの職員に半構造化インタビュー調査を実施し、多様な視点からの分析を行う。
	小林実央グループ コミュニティ政策学科 空閑ゼミ 小林実央、宇部沙織 〈団体発表 2名〉 14:45-15:05	『地域住民ネットワーク創出に向けた地域への介入—埼玉県小川町での活動より—』 地域住民が地域の現状と向き合い、地域活性化や地域課題等の解決への自立的取り組み体制を、地域の人々と共に構築していくことが、私たちの目標である。そのために、地域イベントへ参加や古民家活用の企画・運営等に、地域住民を巻き込めるような、地域への介入が必要である。その、地域への介入がどう地域に影響を与えうるのか、その可能性と課題について、ゼミ活動の事例から導いていく。

### ■会場案内図



卒業生と語るコミ福祉力  
 —学部創設20周年！未来への対話—

## コミュニティ福祉学会“まなびあい” 第11回年次大会

2018.10.27. Sat.

13:00-19:00

(12:30 受付開始)

立教大学新座キャンパス

### プログラム

■総会・第4回研究実践奨励賞授賞式	13:00~13:30	3号館 2階	N321
■分科会	13:45~15:15	2号館 2階	N225, N226, N227
■シンポジウム	15:30~17:30	3号館 2階	N321
■交流会(懇親会)	17:45~19:00	こかげ	

主催 コミュニティ福祉学会  
コミュニティ福祉学部

Tel. 048-471-7308  
Mail. cchs@rikkyo.ac.jp

■大会趣意

今回の大会は、コミュニティ福祉学部創設 20 周年として、シンポジウムに卒業生 4 名に登壇していただきます。コミュニティ福祉学部での学びが卒業後、仕事や家庭、地域社会、そして人生においてどのように活かしているのかお話しいただき、これまでの学び、そしてこれからの学びのあり方について、在学学生、卒業生、教員と共に考えていくことを目指しています。分科会では、自由演題発表として、大会テーマにとらわれず、学生、卒業生、教員の皆さんが日ごろ研究、調査しているテーマの発表を行います。交流会は、学生、卒業生、教員など様々な立場の方が分け隔てなくお互いに語りあい、“まなびあい”が「現場と大学の架け橋」の役割となることを期待しています。コミ福の輪を広げる、きっかけになれば幸いです。

■プログラム

時間	内容	会場
12:30～	受付開始	3号館2階 N321 前
13:00～13:30	総会 第 4 回研究実践奨励賞受賞式 (学会誌『まなびあい』第 10 号掲載作品から選出されたものです。)	3号館2階 N321
13:45～15:15	分科会 自由演題発表 9 件が各会場にて行われます。各発表の詳細は、右頁からの分科会発表概要をご参照ください。	2号館2階 N225 N226 N227
15:30～17:30	シンポジウム 【司会:湯澤直美】 「学部創設 20 周年！未来への対話—卒業生と語るコミ福力—」 卒業後、様々な分野で活躍されているコミ福の卒業生に『コミ福力』について語っていただきます。 ■シンポジスト■ 長谷直樹さん(企業)、土屋ゆかりさん(社協) 砂井智光さん(公務員)、八重樫温代さん(企業)	3号館2階 N321
17:45～19:00	交流会 学びあいの場であると同時に、卒業生の同窓会としての要素も兼ね、学生と卒業生、教員の交流の場でもあります。“まなびあい”が、現場と大学の架け橋となることを願っています。 ■参加費■ 学生・院生:無料 卒業生・一般:1,000 円 教員:2,000 円	4号館1階 カフェテリア こかげ

■運営委員会からのお知らせ

コミュニティ福祉学会“まなびあい”運営委員会では、運営委員として、一緒に活動して下さる方を募集しています。  
・年 1 回の“まなびあい”年次大会(10 月もしくは 11 月開催)などに向け、隔月 1 回程度で運営委員会を行っています。  
・委員は、学生・卒業生・先生から構成されており、様々な方と知り合い、交流できる機会があります。  
・やってみたい企画を、実現できる場にもなります。  
関心のある方は、事務局(担当:大野)までお気軽にお問い合わせください。  
〈コミュニティ福祉学会事務局〉 Tel 048-471-7308(月～金 9:00～15:00) Mail: cchs@rikkyo.ac.jp

■分科会発表概要

(各発表 15 分、質疑応答 5 分程度。全ての発表後、各教室でコメンテーターの教員より 10 分程度総括をいただく予定となっています。)

会場	発表者・所属 (発表形式) 時間	発表タイトル・概要
(司会:坂田拓朗) N225 コメンテーター:空閑先生)	河田 理菜グループ 福祉学科 岡ゼミ 高久航大、浦野萌、 安井幸乃、脇くみか、 吉沢りせ、今富綾乃、 津留有希子、河田理菜、 渡辺優奈、渡邊真央  〈団体発表 10 名〉 13:45-14:05	『精神的な自立～想いを馳せる～』  社会福祉士を目指す私たちは、児童・女性福祉領域の現場実習に臨んでいます。実習の最中ではありますが、皆で立ち止まり「精神的自立とは何だろう」と考えたく、発表参加に手を挙げました。自立というと生活スキルを補い向上させることが主要にも思えます。しかし精神的な課題をどのように乗り越えて自己肯定感を回復していくかということも、コミュニティで生きてくうえでの重要な課題であると考えています。
	桑原 涼グループ コミュニティ政策学科 藤井ゼミ 桑原涼、橋本淳之介  〈団体発表 2 名〉 14:15-14:35	『NPO 法人さいたまユースサポートネットから紐解く若者支援事業の今後の可能性について』  NPO 法人さいたまユースサポートネットについてのヒアリング調査を基にした発表を行います。「居場所」に対して重きを置いている当団体が 2018 年 5 月から新たに 2 つの事業を展開し、計 7 つとなった各事業の立ち上げ経緯や運営方法などを多角的に知り、当団体の社会的価値や将来に対するの考察をします。
	朴 貞仁グループ コミュニティ政策学科 藤井ゼミ 朴貞仁、寺田のぞみ  〈団体発表 2 名〉 14:45-15:05	『ワーカーズコレクティブ協会からみる若者自立支援の状況や課題 —座間市の「はたらつく・ざま」の事例を中心に—』  本報告は、若者就労準備自立支援をはじめとする、地域住民が抱える諸問題を解決するための活動を行うワーカーズ・コレクティブ協会について検討する。また、協会が生活クラブ生協との共同事業体として座間市から委託を受けて運営している「はたらつく・ざま」の事例を通じて、ネットワーク構築の意義や若者自立支援が抱えている課題、事業の可能性などについての考察を述べる。
	長壁 唯グループ コミュニティ政策学科 藤井ゼミ 長壁唯、辻岡友梨子  〈団体発表 2 名〉 13:45-14:05	『静岡方式から学ぶ！伴走型の就労支援』  静岡方式という伴走型就労支援で知られる NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡。代表の津富氏のヒアリング調査を通じて現在若者支援において重要視されている「居場所」について、静岡方式と他団体ではどう違うのか、比較しながらその在り方について考えていく。
(司会:麻野美和) N226 コメンテーター:平野先生)	林 圭祐グループ コミュニティ政策学科 藤井ゼミ 林圭祐、向井みなみ 木内亜美  〈団体発表 3 名〉 14:15-14:35	『学びから就労への移行における若者支援～文化学習協同ネットワークの活動を通じて～』  NPO 法人文化学習協同ネットワークの子ども・若者支援や就労支援のプログラムを通じて、若者支援の現状と課題について考察する。現代の青年期の若者が抱える生きづらさや悩みについてその背景もふまえ、若者のやり直しを図るために必要な支援とは何かを考える。また、学びから仕事へ繋げる中間的就労の実態について考察する。
	新木 大介グループ 福祉学科 富田ゼミ 新木大介、大橋理美、 田中来実、村上渚、 山口紗奈、吉澤亜美  〈団体発表 6 名〉 14:45-15:05	『支援者の視点から各ライフステージにおける知的障害者への支援の在り方を考える』  障害の有無に関わらず、人生において、いくつかのターニングポイントが存在する。中でも、知的障害者は、就学や就労等を考える上で、より多くの支援を必要とする場合がある。成長に伴い、各ライフステージの方向性を決断しようとする際、本人の意思や家族の希望を尊重しつつ、より良い生活の実現のためには、支援者として何ができるのかを考える。ここでは、支援方法を具体的な事例から考察する。